

岡山県

よ し ね ん ぶ つ おどり

吉念仏踊

県指定無形民俗文化財

吉念仏踊保存会

[出演者]

菱川 重信 (読み手)	松下 功 (羯鼓)	菱川 吉一 (鉦)	鈴木 修 (控え)
松下二三男 (音頭取り)	笥 義之 (羯鼓)	菱川 雅彦 (鉦)	笥 大地 (控え)
松下 正則 (音頭取り)	菱川 晃 (羯鼓)	大島 健一 (鉦)	笥 幸二郎 (控え)
杉原 弘明 (サイハラ)	石坂 正二 (羯鼓)	松下 幸一 (鉦)	笥 安宏 (控え)
菱川 盾治 (サイハラ)	原田耕二郎 (羯鼓)	松下 悟 (鉦)	菱川 恭平 (控え)

「吉念仏踊保存会」は、岡山県真庭市吉地区にある真言宗今西山法福寺の境内で行なっている「吉念仏踊」が昭和36年7月25日に岡山県指定重要無形民俗文化財に指定されるに伴い、従来の運営組織である「講連中」を「保存会」に改称し現在に至ったものです。先祖から受け継いだ伝統ある念仏踊を保存・伝承するために、会員一同研鑽と努力を重ねております。

この念仏踊は、伝えによると昔、疫病の流行で村でも多くの死者が出たことから、悪霊をはらうために跳び(踊りとはいわない)出したといえます。現在でも8月16日(かつては旧暦7月16日)の夜、法福寺の本堂の前で、「講連中」とも呼ばれる約20人の男性が羯鼓と鉦を持ち、大傘(天蓋ともいう)をさし逆さにした木白に上った読み手による供養の唱えごとにつれて跳びます。信仰のためやっておりますので雨が降っても必ず行います。

羽織姿で正装した読み手が奉書に書かれた巻物をもとに1軒1軒の先祖供養を言い挙げ、すると両脇に立った音頭取りがかけ声をかけ、サイハラを持った2人が互いに打ち合います。踊りに使われるサイハラは長さ1間の丸棒で、両端には紙を丸く房に結びつけ、これを持つ人は白い法被を身に

[行方時期・場所]

8月16日

真言宗今西山法福寺の本堂の前
(岡山県真庭市吉)

付けています。これが終わると回りに輪を作った紺色の法被の男性が鉦を打ち、羯鼓を叩き、このようにして一同「念仏を跳び」ます。これを2回繰り返すと読み手は次の檀家の供養に移ります。

今回は、盆踊りとなる以前の踊り念仏の姿をとどめた宗教性の強い行事として伝承されている点で貴重とされる踊りを余すところなくご披露いたします。

